

高等学校初任者研修を実施しました。

令和2年6月9日(火)に「高等学校初任者研修」を実施しました。開講式、第2回と中止となった初任者研修でしたが、ようやく



スタートの日を迎えることができました。

総合教育センター山田知子所長からの初任者への激励の言葉から始まり、午前中は「生徒理解と生徒指導の基礎」について、愛知県立岡崎西高等学校教頭 白井雅彦先生よりお話をいただきました。新型コロナウイルス感染症防止のため、受講者を5会場に分け、中継シス



テムでつなぐ形での実施となりました。

午後は、総合教育センター研究部教科研究室 川口永理室長による「教務上の諸問題」に関する講義に続き、教科別研修「学習指導の基本Ⅰ」が行われました。ようやく同期の先生方と意見交換をする時間をもつことができ、教科に関する悩みを共有したり、「自分も負けてはいられない」と授業力向上に向けたモチベーションを高めたりすることができた様子でした。



【受講者の声】

- 生徒との時間をできるだけ多くとり、生徒理解を深めていきたいと思いました。
- 生徒のささいな変化に気付き、先生方と情報を共有する大切さを学びました。

- 「ここを見よう」というポイントを決めて先生方の授業を参観しようと思いました。
- これからの教員に求められる資質・能力の中でも特に「自律的に学ぶ姿勢」を大切にしたいと思いました。
- 「保護者にとって子どもは大切に育ててきた宝」という言葉がとても印象に残りました。生徒の学びを支援する人として、生徒の成長に寄り添っていきたいと思います。



- どのような力を身に付けさせたいかを明確にするためには、まず生徒理解が必要であることを理解することができました。
- 学習指導要領を理解した上で授業展開を考えることの大切さを改めて感じました。
- 一方的に教え込むかたちで授業を行っているが、生徒が主役となるような授業づくりを常に心がけたいと思います。